company newsletter

VOL99

ダン吉＆べっこときどき新聞

2024.1.1　期待してます　辰年さんに

発行元　小久保運送（有）/　かたづけダンべぇ0270-32-1542

1年間ありがとう

先日テレビを見ていたら、今年を表す文字は「税」ということになったそうですが、うーん、なんかピンと来ない感じ。なかなか一文字で世相を表現すると言うのは難しいですよね。個人的に今年を表現するとしたら、「色々トライした１年」でしょうか。ですのでなかなか一文字で表現するのは難しいですね(笑)

さてそんなウサギ年（私年男）でしたが、辰年はどうなるんでしょうかねぇ。今このレターを書いていて、子供の頃、そうか同級生でも１月～３月生まれの子は、辰年なんだな～と不思議に思ったことを覚えています。

振返れば昨年の今ごろは、外に出るのもマスクが当たり前。人ごみの中ならなおさらでした。忘年会や新年会も企画を見送るところも多くて、そういう意味では自由の制約もありましたよね。それでも５月にコロナが５類に分類され、インフルエンザのような扱いとされたあとは、私自身はなるべくマスクを付けず外出し、コロナ前と同じように振舞うようにしてました。最初は結構抵抗もありましたけど、でも私が所属するある会では例会にマスクを付けてくる人は早い段階で、ほとんどいませんでした。今、やっとそれが当たり前になってきた感じがします。

そんな今年の後半でしたが、コロナ禍故に成立していたビジネスが無くなり、世界情勢によるコストアップ、値上等も影響して、ちょっと不安な面も出て参りました。でもでも私は頑張ります！日本の力を信じますよ！それでも地球は回る（？）。2024年が始まります。頑張って行きましょう！期待しています、辰年さんに(笑)

かたづけダンべぇから

2023年は大変お世話になりました。かたづけダンべぇもサービス開始からちょうど10年間が経ちました。

振り返ってみれば、様々な人に助けて頂いて、これまで何とかやってくることができたと思います。

これも人と人とのつながりを大切にして、小さな仕事から大きな仕事まで、一生懸命ブレずにやってきたことが認められたのではないか？と勝手に推察している次第です。

2024年もかたづけダンべぇを、どうぞよろしくお願い致します。（スタッフ一同）

ご紹介 佐波郡玉村町「おにぎりカフェ　たまむすび」さんのご紹介

日光例幣使道の宿場町として栄えた玉村宿の賑わいを、歴史ある建物たちが当時の面影を感じさせてくれる玉村町上新田・下新田周辺。**「玉むすび」**さんは、その街道沿いで、かつて造り酒屋だった建物を再利用、今年３月に**おにぎりカフェ**としてスタートしました。

お米は、オーナーの樋口さんが惚れ込んだ**中之条のブランド米「花ゆかり」**。お米の持ち味を生かすために硬めに炊き、三角の型で成型。時間が経ってもふっくら感が残るのも特長です。

具材は、毎日７種類。化学調味料・保存料は一切使用していません。塩は沖縄産の天然塩、海苔は有明産…と妥協がありません。人気の**「本日のおにぎりランチ（１１００円）」**は、好きなおにぎり２個に、旬の地場野菜をたっぷり使ったお惣菜、サラダ、きのこのお味噌汁が付いた、心も身体もほっこり幸せにしてくれるメニュー。

本日のおにぎりランチ

店主の樋口さんは、玉村町のまちづくり活動を長きにわたって続けてこられました。「玉村の歴史を守りながら、次の世代に繋げていきたい。気軽に人が集まってくる〝まちの寄り合い所〟のようなカフェになれれば・・」と樋口さん。

店内は、和室やちょっとした個室もあって、子連れでも利用しやすい雰囲気です。

イートインも、テイクアウトもどちらもＯＫ。ただし、おにぎりは売り切れ次第終了です。

「たまむすび　」
住所：佐波郡玉村町下新田619
電話：0270-65-2050
営業時間：11:30～16:00
（ランチ11:30～14:00）
定休日：日曜・第1.3月曜日

出典「アイマップ」www.imap.ne.jp

ひとこと

パルコと言えば、日本のファッションや文化も引っ張ってきた小売業、というイメージがあります。縁あって若いころ、所沢市にあるパルコ（新所沢駅近く）によく通いました。

そんな慣れ親しんだ、地方のパルコが、来年２月でその４０年の歴史に幕を閉じるとネットで知り、１０年ぶり位に家族で行って参りました。

行ってみて感じたのは、「人少ないな～」ということ。かつては恐らく先端的な建物に、おしゃれな洋服やグッズのお店。子供が夢中になった、キャラクターショップ。混雑していた飲食店等も、ちょっと寂しい。そして印象的だったのは、店内のベンチにずっと座り続ける高齢者の姿。

閉店には様々な理由があると思いますが、大げさな様ですが、日本の抱えている問題点を垣間見たような気が。でも同時に、この状況を何とかしないといかんって、勝手に思った私でした。